

製品名: 切断型インテグリン α V HC (K889) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08998**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	95kDa

抗原情報

遺伝子名	ITGAV
別名	ITGAV; MSK8; VNRA; Integrin alpha-V; Vitronectin receptor subunit alpha; CD antigen CD51
遺伝子 ID	3685.0
SwissProt ID	P06756
免疫原	抗血清はヒト ITGAV 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 840-889

背景

インテグリンサブユニット α V(ITGAV) Homo sapiens この遺伝子産物はインテグリン α 鎖ファミリーに属します。インテグリンは α サブユニットと β サブユニットからなるヘテロ二量体の膜貫通タンパク質で、細胞表面接着とシグナル伝達に機能します。コードさ

れているプレプロタンパク質はタンパク質分解処理を受けて、 αV サブユニットを構成する軽鎖と重鎖を生成します。このサブユニットは $\beta 1$ 、 $\beta 3$ 、 $\beta 5$ 、 $\beta 6$ 、 $\beta 8$ サブユニットと会合します。 αV と $\beta 3$ サブユニットからなるヘテロ二量体は、ピトロネクチン受容体としても知られています。このインテグリンは、血管新生と癌の進行を制御している可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。インテグリン $\alpha 5$ サブユニットとインテグリン αV サブユニットは、異なる遺伝子によってコードされていることに留意してください。[RefSeq 提供、2015年10月]機能: α -V インテグリンは、ピトロネクチン、サイトタクチン、フィブロネクチン、フィブリノーゲン、ラミニン、マトリックスメタロプロテアーゼ-2、オステオポンチン、オステオモジュリン、プロトロンビン、トロンボスポンジン、および vWF の受容体です。これらの受容体は、幅広いリガンドの R-G-D 配列を認識します。HIV-1 感染の場合、細胞外ウイルス Tat タンパク質との相互作用により、カポジ肉腫病変における血管新生が促進されるようです。類似性: インテグリン α 鎖ファミリーに属します。類似性: 7つの FG-GAP リピートを含みます。サブユニット: α サブユニットと β サブユニットのヘテロダイマーです。 α サブユニットは、ジスルフィド結合によって連結された重鎖と軽鎖で構成されています。アルファ V は、ベータ 1、ベータ 3、ベータ 5、ベータ 6、またはベータ 8 サブユニットのいずれかと会合します。HIV-1 Tat と相互作用します。アルファ V/ベータ 6 は口蹄疫ウイルス (FMDV) の VP1 タンパク質に結合し、このウイルスの受容体として機能します (類似性による)。アルファ V/ベータ 6 はコクサッキーウイルス A9 およびコクサッキーウイルス B1 のカプシドタンパク質に結合し、これらのウイルスの受容体として機能します。

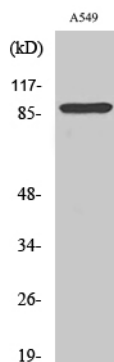
研究分野

接着斑、ECM-受容体相互作用、細胞接着分子 (CAM)、アクチンと細胞骨格の調節、がんにおける経路、小細胞肺癌、肥大型心筋症 (HCM)、不整脈性右室心筋症 (ARVC)、拡張型心筋症

画像データ



A549 細胞ライセートをエトポシド $25\mu\text{M}$ で 1 時間処理し、ITGAV (重鎖、切断型 Lys889) 抗体を用いてウェスタンブロット解析を行った。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



切断型インテグリン αV HC (K889) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析